

第 184 回ペン川柳（お題＝汗） 令和 1 年 8 月 23 日

世話人：塚田 實（^{ただ}々々）

（*印は今月の互選五句、*は最優秀句）

1. かく汗も中位なりクールビズ（明迷＝八木） → 3 票
小林一茶の「めでたさもちう位（くらみ）也おらが春」が直ぐ思い浮かびますね。本歌取でしょうか。クールビズ実施中の事務所の雰囲気も良く出ていますね。3 票を得たが、作者は最優秀句をとったので、ここは互選句から遠慮して頂いた。
2. 汗流し玉音聞いた終戦日（我々好＝浜田） → 1 票
玉音放送を直接聞いた人しか読めない川柳ですね。「汗流し」は 8 月 15 日からの連想でしょうか。「ポツダム宣言を受諾せしめたり」の玉音は子供には分かりにくかったようだが、雰囲気「戦争に負けたのだ」と伝わったと聞きます。川柳子は時の首相鈴木貫太郎にも議論が及び話題は尽きませんでした。
3. またバーディ手に汗にぎるシンデレラ（井波＝稲宮） → 0 票
元句は「バーディごと手に汗にぎるメジャクイーン」だったが、「ごと」がよく分からない、「毎」ならまだ分かるとの評と、「メジャクイーン」より「シンデレラ」の方が深みがあると、上記のように修正。全英女子オープンで優勝した渋野日向子の笑顔が目浮かぶようです。
4. 甲子園手に汗握る二死満塁（だし＝大野） → 1 票
大船渡高校の佐々木投手や星稜高校の奥川投手など地区予選も含めて話題は沢山あり、今年も甲子園の熱闘は楽しめました。しかし川柳については素直に状況は分かるが、今一つのひねりが欲しい。
5. 汗滲みた昔のベッドで夢を追い（酔雅＝西川） → 1 票
この種の艶話は作者の独特の世界ですね。場面が思い浮かぶようです。想像を駆り立てますね。この世界で酔雅さんに対抗できるのは、酔深さんだけかともつぱらの評判です。
6. いい汗をかいたつもりが熱中症（損得＝細谷） → (－)
良い川柳ですね。今年も熱中症が沢山報告されました。特に年をとると温度変化に鈍感になるともいわれているので、我が川柳子は要注意です。残念ながら後の注に記したように投票外でした。
7. 有難や汗びっしょりで風呂探し（安兵衛＝山縣） → 0 票
今回の開催場所変更の世話人の努力を慰労して頂いたようです。「風呂」が「風炉」となっていれば「土風炉」を連想してなるほどと票もぐんと伸びたでしょうが、連想が繋がらず、そこまで届きませんでした。いずれにしても思い遣りに感謝です。

- * 8. 事がバレにじむ冷汗脂汗 (拿々=塚田) → 3票
元句は「事がバレ思わずにじむ脂汗」でしたが、「思わず」がしっくりこないとして、上記のように変えた。「事」についても議論沸騰しましたが、やはりこの方が色んな事を想像させるとして原案通りとなりました。
9. ペチャパイの平野に暮らす汗しらず (火酒=三春) → 1票
デカパイの谷間の汗で溺れ死ぬ
二句あったのでこれは評価はどうするんだと大いに議論になりました。その結果1票になりましたが、作者はそんなことお見通しで、返歌を楽しんだということです。でも一句一句は面白いですね。別々ならもっと票が集まったでしょう。ここで昔の酔深さんの痴漢に間違えられた時の句の紹介がありました。「馬鹿言うな誰がつまむか干しぶどう」
10. 汗知らず打ち萬 (よろず) 部位真っ白け (晃二=安藤) → 0票
これも意味がよく分からないとして票が入りませんでした。「汗知らず」とは「タルカム-パウダー」のことだそうです。説明を聞いて「なるほど」と納得。川柳にしては美しすぎるかもしれません。
11. 汗かいて努力したのに水の泡 (不言=岩崎) → 0票
元句は「汗かいて努力した結果水の泡」でした。中八になっているので「結果」を「のに」に訂正しました。しかし、会社人生ではこんなことよくありますね。
- * 12. 稲妻に冷や汗かいてヘソ隠す (酔深=平尾) → 2票
川柳としては今一つひねりがなくて面白くないとの評だったが、優秀句に選ばれた。今の子供たちは、雷とヘソのお話は分かるでしょうかね。
13. 汗がドバーツこれじゃサウナはお手上げだ (安兵衛=山縣) → 1票
確かにサウナでは汗が一杯出ますが、それ以上に暑かったということでしょうか。「それでどうした」と票が伸びませんでした。
14. 垂れるのはいつも冷や汗油汗 (損得=細谷) → (-)
これもなかなか良い句ですが、投票に間に合わなかったのは残念です。8番の拿々の訂正後の句とよく似たのは偶然です。この気持ち良く分かります。
15. もういいよさんざんかいた汗と恥 (拿々=塚田) → 2票
現役時代は汗と恥をかきどうしてでした。しかし、失敗を糧にくじけず頑張ってきた自負はあります。ペンクラブでも汗と恥は一杯かきそうです。
16. 大汗で帰宅の癒し冷えタオル (零門=松谷) → 0票
作者の夫婦円満ぶりを川柳子は羨んだのでしょうかね。とても素直な良い句ですが、票は伸びませんでした。ここは作者より優しい奥様を褒めたたえましょう。やはり羨ましい。
17. ボケ始め冷や汗でないもうなれた (我々好=浜田) → 2票
元句は「…冷や汗かくのも…」だったが、「冷や汗が出なくなったのはかなり前だろう」との意見が大勢で、中八だったこともあり、上記のように訂正。いつまでも冷や汗かくほど敏感でありたいものです。

- * 18. 若冲の奇想思わず汗のしみ (火酒＝三春) → 4票
 なかなか良いセンスしていますね。汗のしみから若冲に発展するなど秀逸です。さて、どんな汗のしみなのか想像してしまいますね。想像もこの辺で止めておきましょう。
- * 19. 冷や汗もかかないほどの鈍感さ (不言＝岩崎) → 4票
 元句は「…かかぬほどの…」だったが、中六の字足らずなので上記のように訂正した。17番と似ていますが、こちらはいかにも川柳らしい仕上がりで、優秀句に選ばれました。不言さん最近頑張っていますね。
- 20. すれ違う若い女性の汗を追い (酔雅＝西川) → 2票
 これも酔雅さん独特の世界ですね。若い女性の汗にはフェロモンたっぷりなのでしょうか。それに誘われて後を追ったのでしょうか、ストーカーと間違われぬよう気を付けてください。
- 21. 汗みどろ宿題の箱翹音 (はおと) する (晃二＝安藤) → 0票
 元句は「汗顔の…」と大人っぽい表現だったので、川柳子は解説を聞くまで、良く理解できなかった。小学生が夏休みの宿題が間に合わず汗を一杯かきながら、まだ生きたままの昆虫を箱に入れて持ってきた姿とのこと。聞けば綺麗な俳句のような川柳です。
- * 22. 非正規も同じ分だけ汗流し (明迷＝八木) → 5票
 文句なしに最優秀句に選ばれました。最近の大きな社会問題をさらりと川柳に仕立て上げました。作者の力量には脱帽です。作者の当初案は違っていました。充分検討した後、見事に上記句になりました。
- 23. 汗だくで正論説くも文盲か (井波＝稲宮) → 2票
 これは独特の井波節で今の日韓問題を詠んだものです。何人かは「文盲」の用語に引っかかり投票が伸びませんでした。ワイドショーでも日韓問題ばかり取り上げられますが、他にも論ずべき重要問題は沢山あると思います。
- 24. 草取り中蜂の巣見つけ冷汗に (零門＝松谷) → 0票
 作者の実体験だそうです。大変な驚きだったと思いますが、でも「それで…？」との反応で、投票が伸びませんでした。でも味わいありますよね。
- 25. 汗かいでフェロモン爆発夢心地 (酔深＝平尾) → 1票
 元句は「汗かいて…」でしたが、それでは面白くないと「汗かいで (嗅ぐ) …」に変えました。淫靡感が一層増しますね。
- 26. 川床で肘の痛みで冷汗が (だし＝大野) → 0票
 鴨川の川床か、貴船の川床か川柳子は夫々の経験を話し、自慢話を披露。しかし、最後まで「肘の痛み」が良く理解できずじまいでした。何故肘が痛む？

出席 8 名 = 稲宮健一 (井波)、山縣正靖 (安兵衛)、平尾富男 (酔深)、細谷博 (損得)、松谷隆 (零門)、安藤晃二 (晃二)、三春 (火酒)、塚田實 (拿々)

欠席投句 5 名 = 西川武彦 (酔雅)、大野ただし (だし)、浜田道雄 (我々好)、八木信男 (明迷)、
岩崎洋一郎 (不言)

(注) 損得さんは、都合により投票には間に合いませんでしたが、立派な川柳をご紹介いただきました。

9 月以降のお題 : 9 月 23 日 (月) 「稲」

10 月 30 日 (水) 31 日 (木) (遠足) 「落ちる・落とす」

11 月 26 日 (火) 「鍵」

12 月 23 日 (月) 「餌・えさ・エサ」

1 月 27 日 (月) 「燃える・燃やす」